

(三) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

俊蔭の娘(尚侍)に思いを寄せる帝(上)はその姿を一目見るべく思案している。

上、「いかで、この尚侍御覽ぜむ」と思すに、「大殿油、物あらはに燈せば、ものし。いかにせまし」と思ほしおはしますに、
螢、おはします御前わたりに、三つ四つ連れて飛びありく。

上、「これが光に、物は見えぬべかめり」と思して、立ち走りて、皆捕らへて、御袖に包みて御覽するに、あまたあらむはよかりぬべければ、やがて、「童部や、候ふ。螢、少し求めよや。かの書思ひ出でむ」と仰せらる。殿上童部、夜更けぬれば、候はぬうちにも、仲忠の朝臣は、承り得る心ありて、水のほとり・草のわたりに歩きて、多くの螢を捕らへて、朝服の袖に包みて持て参りて、暗き所に立ちて、この螢を包みながらうそぶく時に、上、いととく御覽じつけて、直衣の御袖に移し取りて、包み隠して持て参り給ひて、尚侍の候ひ給ふ几帳の帷子をうち懸け給ひて、物などのたまふに、かの尚侍のほど近きに、この螢をさし寄せて、包みながらうそぶき給へば、さる薄物の御直衣にそこら包まれたれば、残る所なく見ゆる時に、尚侍、「あやしのわざや」とうち笑ひて、かく聞こゆ。

X 衣薄み袖のうらより見ゆる火は満つ潮垂るる海女や住むらむ

と聞こえ給ふ様、めでたき人の物など言ひ出だしたる、さらなり、し出だしたる才など、はた、いとめでたく心憎き人の、そのかたち、はた、世に類なくいみじき人の、さる労ある物の光にほのかに見ゆるは、まして、いとなむ切なりける。上、御覽するに、譬ふべき人なく、めでたく御覽すること限りなし。かくて、いらへ給ふ、「年ごろの心ざしは、これにこそ見ゆれ。」

Y しほたれて年も経にける袖のうらはほのかに見るぞかけてうれしき。

上、おはしまして、よろづにあはれにをかしき御物語をしつつおはしますほどに、夜暁になりゆく。鳥うち鳴き始めなどするに、上、「『まれに会ふ夜は』と言ふことは、まことなりけり」などのたまふ。

(『うつほ物語』による)

注

* 童部……元服前の姿をした召使い。

* かの書……『晋書』『車胤伝』の故事をいう。車胤は貧しくて灯火の油が買えず、夏は螢を集めた光で書物を読んだ。

* 仲忠の朝臣……藤原仲忠。尚侍の子。

* 朝服……朝廷に出仕する際に着る服。

* まれに会ふ夜は……「一人寝るときは待たるる鳥の音もまれに会ふ夜はわびしかりけり」『後撰和歌集』(恋五・八九五・小野小町が姉)の四句目を引用している。

問一 傍線1について、「ものし」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

23。

A 気味が悪い

B 厭わしい

C 風流である

D 華やかである

問二 傍線2「見えぬ」、傍線3「よかりぬ」を正しく品詞分解したものを次の中から一つずつ選び、その符号をマークせよ。解答

番号は2が 24、3が 25。

- 2
- A 動詞「見る」の未然形＋助動詞「ず」の連体形
 - B 動詞「見る」の連用形＋助動詞「ぬ」の終止形
 - C 動詞「見ゆ」の未然形＋助動詞「ず」の連体形
 - D 動詞「見ゆ」の連用形＋助動詞「ぬ」の終止形

- 3
- A 形容詞「よし」の連用形＋助動詞「ぬ」の終止形
 - B 形容詞「よし」の未然形＋助動詞「ず」の連体形
 - C 形容詞「よろし」の連用形＋助動詞「ぬ」の終止形
 - D 形容詞「よろし」の未然形＋助動詞「ず」の連体形

問三 傍線4について、「うそぶく」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

26。

- A 生意気な態度をとる
- B 見えないように隠す
- C 口をすぼめて息を吐く
- D 無視してそらとぼける

問四 XとYの和歌についての解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

27。

A Xは尚侍の詠歌で、螢の火に浮かび上がる自分を「潮垂るる海女」に喩えて謙遜している。Yは帝の返歌で、螢の光のなかでわずかに尚侍の姿を見られたことが嬉しいと詠んでいる。

B Xは尚侍の詠歌で、帝と離れ涙に暮れて過ごす日々を訴えるとともに、海辺に住まう「潮垂るる海女」に同情している。

Yは帝の返歌で、尚侍を思いやりながら、その配慮を嬉しく思う心情を込めて詠んでいる。

C Xは尚侍の詠歌で、自分を恋い慕って泣いているであろう帝を「潮垂るる海女」に喩えている。Yは帝の返歌で、ようやく恋い焦がれていた尚侍の姿を揺らめく螢の光のなかに見ることができた感激を詠んでいる。

D Xは尚侍の詠歌で、帝の薄情な気持ちを衣の薄さに、涙にくれる我が身を「潮垂るる海女」にそれぞれ喩えている。Yは帝の返歌で、片思いをしているのは自分の方だと詠んでいる。

問五

傍線5「切なり」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

28。

A 切なくも悲しい気持ちになる

B 身を切られるように辛くなる

C 素晴らしいと心に深く感じ入る

D 呼吸が苦しくてやりきれなくなる

問六 本文の内容に合致しないものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 29。

- A 仲忠は帝の気持ちを受けて水辺や草むらを歩き回って螢を捕まえ、集めた螢を帝に差し上げた。
- B 仲忠は螢を尚侍のところに持って行ったが、尚侍は几帳の帷子のかげに隠れたまま返事をしなかった。
- C 帝は、灯火の代わりに螢の光を用いて本を読んでいた車胤の故事を思い出してみよう、とおっしゃった。
- D 帝は「愛する人とまれに会っている夜に聞く鳥の声がやるせないというのは本当だった」と言われた。